

環境教育

1 環境教育とは

平成15年10月に、「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」が施行されました。この法律は、環境教育を推進し、環境の保全についての国民一人ひとりの意欲を高めていくことなどを目的としています。また、環境教育の推進等に関する方針、計画等の作成と公表、環境保全の意欲の増進の拠点としての機能を担う体制の整備、環境保全に関する情報の積極的公開などが、地方自治体の責務として定められています。

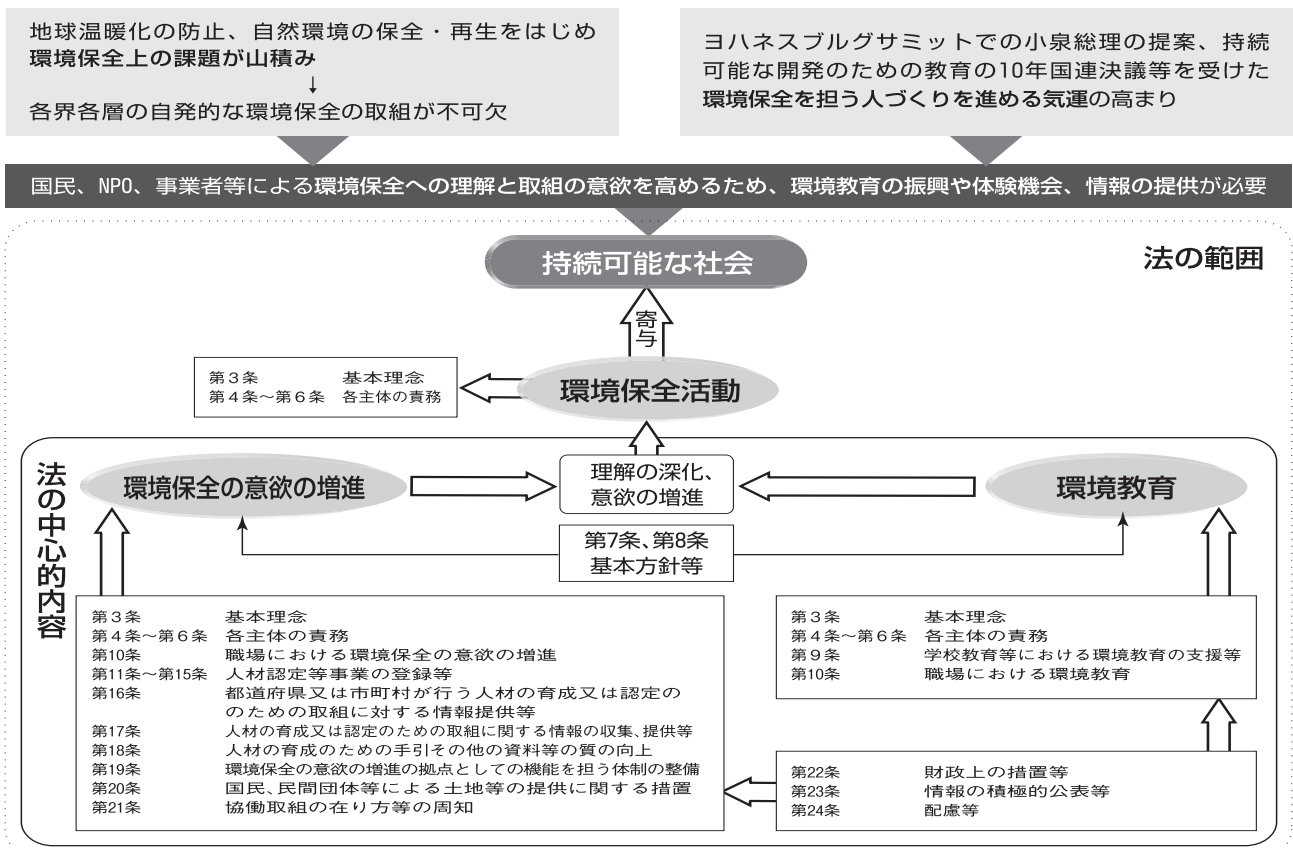
環境教育は、人間と環境とのかかわりについての正しい認識に立ち、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会の構築に主体的に参画できる人材の育成を目指すものです。

今日では、学校・地域・NPO・企業・行政による環境教育・学習の取組が活性化しています。特に、各主体が協

働して行う、身近な地域の特性をいかした自発的な学習や体験型学習が進み、地球規模の視点に立った学習も広がりつつあります。学校では、体験を重視し、身近な環境に目を向けた環境教育が、「総合的な学習の時間」や各教科等で取り組まれています。また、企業でも、環境マネジメントの視点から社員の環境教育に取り組んだり、社会貢献活動の一環として学校等における環境教育のための支援を行っているところがあります。市町村では、生涯学習講座等で環境教育や指導者育成等を行っており、ボランティア活動、NPO活動等地域の行動へと広がりがつつあります。

県では、これら各主体の環境教育・学習をさらに進め、「持続可能な社会」を実現していくための、施策を展開しています。

▶ 図2-11-1 環境保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律の概要と背景



< 出典:環境省HP >

2 環境教育に関する県の取組

環境情報コーナーの整備 [環境計画課]

環境問題の解決のためには、県民、企業、行政等が、お互いに情報を共有し、それぞれの役割、責任を分担しつつ、パートナーシップを築いて環境保全活動を進めていくことが不可欠です。

県では、パートナーシップ形成の基礎となる環境情報の提供体制の充実を図るため、平成9年度から、ボランティア活動に関心を持つ県民が多く集まる場所である「かながわ県民活動サポートセンターボランティア情報・相談コーナー」に「環境情報コーナー」を設置しました。

平成15年度は、NPO法人等の協力を得て「環境情報コーディネーター」を配置し、県民や企業等からの問い合わせへの対応や県民の環境活動に対する助言等を行ったり、県民の環境保全活動が推進されることをねらいとして、メールマガジン等による環境情報の発信を行いました。

また、県民活動サポートセンター及び環境科学センターに「環境学習アドバイザー」を設置して、自主的に体験型の環境学習を進めようとする方々の支援を行いました。

なお、平成16年4月からは、これらの情報提供・相談機能を強化するため、これまでの情報提供、相談体制を見直し、かながわ県民センター3階に「アジェンダ21かながわ環境情報相談コーナー」（愛称：かながわエコBOX）を設置しました。かながわエコBOXには、環境

情報コーディネーターを配置し、NPO法人等との協働・連携により運営しており、環境についての総合的な相談窓口とするとともに、地球温暖化対策についての普及、県民や企業、NPO、学校などの団体が環境配慮に向けて自主的に取り組む内容を登録し、広く社会に発信していく仕組みである「マイアジェンダ」の登録相談や普及、また、連携した取組を支援する窓口としての業務も担っています。



環境情報コーディネーターの活動実績 (平成16年度)

- 場 所:かながわ県民センター3階
「アジェンダ21かながわ環境情報相談コーナー」
(愛称:かながわエコBOX)
- 活動内容:
 - ☆メールマガジン「かながわ環境インフォメーション」の発行 月2回
 - ☆ホームページ「かながわエコBOX」の編集
 - ☆マイアジェンダや地球温暖化など環境分野全般に関する相談業務
 - ☆個人からのマイアジェンダ登録の受付
- 実 績:平成16年度相談件数 1,280件

「神奈川力構想・プロジェクト51」における環境教育

平成15年10月に採択された「新アジェンダ21かながわ」では、県民、企業、NPO、行政など様々な行動主体が、環境配慮に向けて自主的に取り組む内容を「マイアジェンダ^{*}」として公表し、登録することを呼びかけるとともに、相互にパートナーシップを結び、協働して環境に配慮した行動を起こし、社会全体に環境配慮の輪を広げていこうとの提案を行っています。

平成16年3月に策定した県の総合計画「神奈川力構想・プロジェクト51」では、戦略プロジェクトの1つと

して、このマイアジェンダ登録数を目標値とした、「総合的な環境教育の推進」を掲げ、持続可能な社会づくりに向けて、自然環境やごみ、リサイクル、省エネルギーなどにとどまらず、環境と経済の関係や地球規模の問題など、環境問題を幅広くとらえて「自ら考え、選択して行動する人」を育てることをめざしており、このプロジェクトを柱として、学校・地域における環境教育の推進と環境教育推進のための仕組みづくりを進めていくこととしています。

※マイアジェンダ:県及び県内全市町村や県全域を対象に活動している県民団体、企業団体により構成される「かながわ地球環境保全推進会議」では、持続可能な社会かながわを実現するための行動計画として平成15年10月に「新アジェンダ21かながわ」を採択しました。「新アジェンダ」では、環境配慮の取組を進めるため、県民、企業、NPO、行政など、様々な行動主体が自主的に環境配慮に取り組む内容を公表し、登録していたものを「マイアジェンダ」と呼んでいます。マイアジェンダの普及を通して、持続可能な社会かながわづくりをめざしています。

こどもエコクラブへの支援 [環境計画課]

「こどもエコクラブ」は、子どもたちが主体的に環境学習や環境保全に関する活動を行い、人間と環境の関わりについて幅広く関心と理解を深めるための経験を積み重ねながら、環境を大切に思う心を育成することを目的に、平成7年6月に環境省の呼びかけでスタートした事業です。

全国の小、中学生なら誰でも参加ができ、数人から20人程度の仲間と活動を支える1人以上の大人(サポーター)で構成されています。

各クラブは、メンバーの興味・関心に基づき、自ら活動内容を決めて自主的に行う活動(エコロジカルあくしょん)や自主的活動をより楽しく、豊かなものにするために、全国事務局でデザインした全国のクラブの共通的学习活動(エコロジカルとれーにんぐ)を行っています。

県では、クラブ活動の活性化や全県的な広がりを目指して、県内交流会等を開催しています。

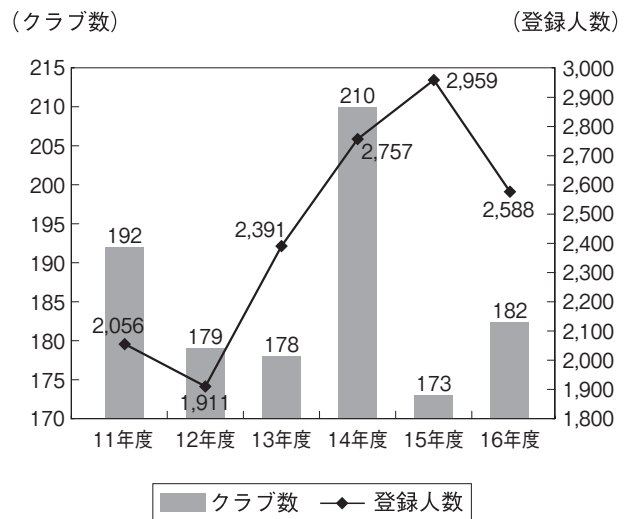
こどもエコクラブ県内交流会

実施日:平成16年10月23日(土)
 場所:県立相模原公園
 内容:こどもエコクラブ活動発表、体験活動(自然観察会、バウムクーヘンづくりなど)



こどもエコクラブ県内交流会の様子

▶ 図2-11-2 クラブ数及び会員数の推移(県内)



▶ 表2-11-1 県内クラブの登録状況(平成16年度)

市町村名	クラブ登録数	登録人数	サポーター人数
横浜市	32	875	102
川崎市	1	22	1
横須賀市	27	305	32
平塚市	7	136	21
鎌倉市	1	59	7
藤沢市	4	166	19
小田原市	15	47	15
茅ヶ崎市	12	174	48
逗子市	4	142	6
相模原市	66	360	36
秦野市	2	67	11
厚木市	3	45	4
大和市	2	37	5
大磯町	4	130	6
開成町	1	5	1
箱根町	1	18	3
計	182	2,588	317



「こどもエコクラブ」

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kankyokeikaku/ecoclub/index.htm>

<http://www.env.go.jp/kids/ecoclub/index.html>

小・中・高等学校等における環境教育[子ども教育支援課、高校教育課]

■ 各教科等における環境教育の実施

学校教育においては、子どもたちが環境について正しい理解を深め、環境や環境問題に関心をもち、環境を大切にし、環境保全に配慮した行動がとれるよう、小・中・高、盲・ろう・養護学校を通じ、児童・生徒の発達段階に応じて、人々の活動と環境とのかかわりなどについて、さまざまな体験活動の工夫・実践により総合的に理解させながら、環境保全のための意欲を高め、技能や思考力を養っています。また、よりよい環境の創造に主体的に参加し、責任ある行動がとれる態度の育成を目指して、社会科、理科、生活科、家庭科等の教科をはじめ、道徳、特別

活動など学校の教育活動全体を通じてさまざまな角度から環境教育を推進しています。

とりわけ、「総合的な学習の時間」では、それぞれの地域や学校の特色をいかし、学校周辺の自然観察、大気や水質の調査、稲作や野菜作りなどの栽培活動、海岸や河川、公園などの美化活動、下草刈りや間伐などの森林保全活動など、自然に親しむことを通じて、その大切さや豊かな感性を育てるために、体験的・問題解決的な学習を重視した多様な教育実践を展開しています。

■ 高等学校における特色ある環境教育

県立高校においては、平成16年度に先進的に環境教育を推進する学校6校を「環境教育拠点校」として指定しました。これらの学校では、大気汚染や水質汚染に関する計測、動植物の観察、森林の維持管理などの実習を行ったり、「総合的な学習の時間」で、環境問題講演会、エコ商品の調査などをもとに、「環境」に関するテーマを設定して課題研究を行ったりしています。また、生徒会活動や文化祭等の学校行事で、ごみの分別や空き缶、牛乳パックのリサイクルに取り組んでいる学校もあります。

この他、総合学科や単位制普通科等の新しいタイ

プの高校では、「環境科学系列」や「環境サイエンス系」等、「環境」に関して重点的に学習できる科目群を設けており、例えば、「環境概論」、「環境科学」、「神奈川の環境問題」、「エコライフ」等の科目を設置しています。

専門高校である農業高校では「環境科学基礎」、工業高校では「地球環境化学」などの科目を設置している学校もあります。

また、教科外活動として、学校周辺の地域清掃や全校での海岸清掃等、環境ボランティアに積極的に取り組んでいる学校もあります。

コラム 市民団体の取組

「特定非営利活動法人 ふるさと環境市民」

ふるさと環境市民は、「考えは地球規模で、行動は足元から」をモットーに地域の環境を守り育て、地球の未来を考えて日々活動している団体で、1995年に設立し、2004年11月NPO法人になりました。構成メンバーは約20名になっています。(2004年現在)

小・中学校での出前講座や親子環境塾等の環境学習プログラムを実施しているほか、「日本の環境首都コンテスト」の全国ネットワーク幹事団体として活動しています。



「ふるさと環境市民」
<http://www.furusato-kankyo.com/>



小学校における環境学習プログラム「ふるさとの宝を探そう」
(2004年11月実施)

環境教育を支援するしくみづくり[環境計画課]

■ グリーン教育支援システム

県では、「環境教育を支援するしくみづくり」として、学校における環境教育を支援することを目的とした「グリーン教育支援システム」を平成17年度に創設しました。

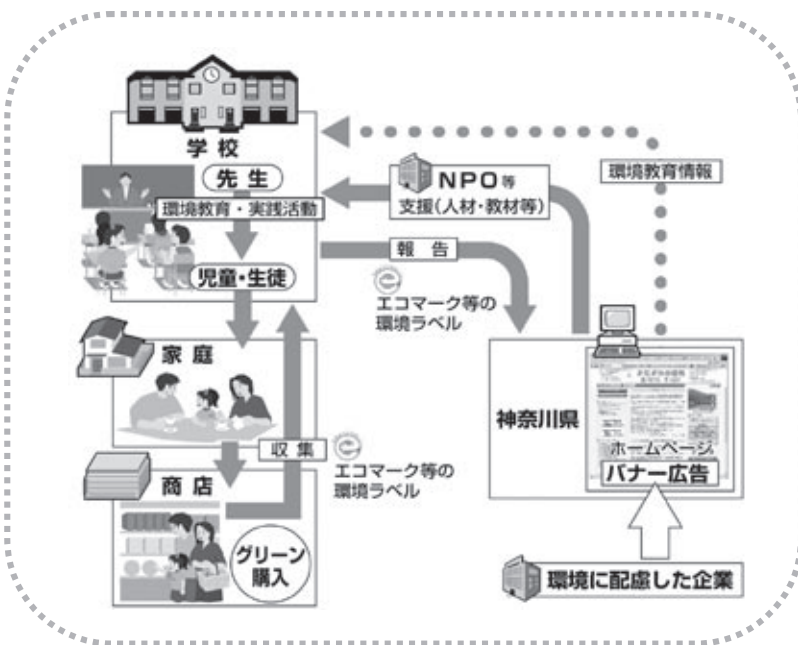
「グリーン教育支援システム」は、学校を中心に企業とNPO、行政が連携し、家庭及び地域に対して、グリーン購入^{*}に関する知識及び情報の普及を図るとともに、そうした取組を行う学校の環境教育及び環境保全活動に対してNPOを通して支援を行う制度で、財源として環境配慮活動に取り組んでいる企業の広告を、県のホームページ「かながわの環境」に掲載し、その広告収入を活用しています。

平成16年度は、試行実施として、モデル校(小学校11校、中学校2校)での取組を行い、各モデル校の児童・生徒が試行実施結果を報告する報告会を開催しました。



モデル校による報告会(神奈川県自治総合研究センター)

▶ 図2-11-3 グリーン教育支援システムのイメージ



▶ 表2-11-2 平成16年度「グリーン教育支援システム」モデル校(13校)

市町村	学校名
横浜市	横浜市立二つ橋小学校
横浜市	横浜市立矢向小学校
川崎市	川崎市立小田小学校
川崎市	川崎市立西御幸小学校
平塚市	平塚市立みずほ小学校
鎌倉市	鎌倉市立西鎌倉小学校
小田原市	小田原市立町田小学校
茅ヶ崎市	茅ヶ崎市立梅田小学校
逗子市	逗子市立久木中学校
綾瀬市	綾瀬市立綾西小学校
綾瀬市	綾瀬市立北の台中学校
中井町	中井町立井ノ口小学校
藤野町	藤野町立小淵小学校

※グリーン購入: 製品やサービスを購入する際に、環境への影響を考慮して、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入する「環境にやさしいものの買い方」のこと。森の緑色をイメージする「グリーン(緑)」が、自然環境を守る考え方や行動を表すシンボルカラーになり、今では広い意味で環境にやさしい事गरら「グリーン○○○」と言い、「エコ○○○」とほぼ同じ意味で使われています。

コラム 中井町立井ノ口小学校

井ノ口小学校周辺は、自然が豊かで多くの生き物が生息している環境にあり、近くには厳島湿生公園があります。子どもたちは、「総合的な学習の時間」を中心に、厳島湿生公園やその近くを流れる葛川、そして里山を中心に水にかかわる人や生き物について調べる取組をしています。

●葛川たんけん

葛川を守ろうという葛川サミットへの参加をきっかけに、葛川を河口まで探検し、川の中のゴミや水の汚れなどの環境問題や、たくましく生きる野鳥や魚の生態について調査し、考えを深めることができました。また、それを新聞や地図により地域に発信することができました。

●ホタルの保護と観察

地域の「厳島湿生公園にホタルを飛ばそう会」の活動に参加し、その方々の思いにふれることで、ホタルがふえる豊かな自然を守っていかなくてはならないという思いをもつようになりました。学校で育てていたホタルが成虫になり、光り始めたことから、夜間の学校を開放し、親子でのホタル観賞会を実施しました。また、厳島湿生公園でも観賞会が行われ、ホタルを通じた地域の交流に参加することができました。

●モリアオガエルを守る

地域によっては天然記念物になっているモリアオガエルが、中井町で発見されました。神奈川県でも、非常に

珍しいできごとなので、子どもたちは興味深く調べました。貯水池の上の木やつるに産んである本物の卵も見ることができ、自然の素晴らしさや不思議さを感じるとともに、貯水池の周りをきれいにし、卵を産みやすい環境を作りました。

中井町の自然を調べる中で、地域の人々の自然を守ろうとする思いや願いにふれることもでき、これからも地域の自然に関心をもち、自然を守っていこうと考えています。



厳島湿生公園にホタルを飛ばそう

コラム 川崎市立枡形中学校

枡形中学校は、全地球規模での環境の変化やその問題を知ることからはじまり、体験的な学習や校外活動を通じた学習を行いました。さらに、環境の保全について、知識や体験をいかした話し合い活動を行っていく中で、どのように個々が行動できるのかを考え、実践していくことの大切さに気づくことをねらいとしています。そのために、企業や各団体、保護者の方々と連携を図り、学習の場を共有しながら計画的に取り組んでいます。

●一人ひとりのボランティア

6月には、事前のリーダー研修会の話し合いで提案された、一人ひとりのボランティア「省エネ・環境バージョン」から、自分の取り組みたい活動を選び、「多摩川美化活動」や「省エネ大作戦－照明に反射紙をつけよう」など、全校で環境活動に取り組みました。

●省エネ・環境講座

11月には、11講座による体験的な活動を取り入れたワークショップを実施しています。11の講座には、企業や各団体の方を講師として招聘し、また、保護者やかわさき地球温暖化対策協議会にも参加してもらっています。そして、1月には、フォーラムを実施しています。校外学習（エコ遠足）やワークショップなど、今まで学習したことをもとに、ワークショップの講師などの方々とともに、環境の保全のために個々がどのようなことができるのかを考えるための話し合い活動を行っています。

●生徒総会討議(省エネ・環境スローガン・具体的活動目標の選定)
毎年3月の生徒総会では、事前に省エネ・環境委員会

が、各クラスに募集した次年度の省エネ・環境スローガンの候補について全校で意見交換をし、選定する取組を行っています。環境問題についての知識が表面的なものに終わることなく、より深い環境問題への意識づけになるとともに、持続可能な社会の実現という将来への展望をふまえた具体的な取組につながっています。



省エネ・環境講座

コラム 県立海老名高等学校

海老名高校は、県央の海老名市に位置し、周囲を田園に囲まれた学校で、「環境教育の推進」を学校目標の一つの柱としており、平成16年度から「環境教育拠点校」となりました。

特に、1年次の「総合的な学習の時間」では、講演会・実習・課題研究とその発表をとおして、全生徒が「環境」について学習します。

●環境問題講演会

元国連職員上村雄彦さんによる「地球規模での環境問題」、日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会による「消費生活と環境」、企業8社による「企業の環境への取組」の講演会を実施しました。

●実習

水道水にしょうゆ・石けん・みそ汁・ジュースなどを混ぜて生活排水をつくり、COD（化学的酸素要求量）を測定して、水質の悪化の度合いを比較しました。また、身近な商品の中で、環境負荷の少ない「エコ商品」にはどのようなものがあるかを選ぶ実習を行いました。

●環境に関する課題研究とイベント「エコプロダクツ2004」への参加



エコ商品にはどのようなものがあるか選ぶ実習

環境問題講演会や実習をとおして、「環境」に関するテーマを設定し、課題研究を行いました。また、企業、自治体、消費者、NPOなどがともに「持続可能な社会」について考えるイベントである「エコプロダクツ2004」に「海老名高校環境学習」のブースを設置し、課題研究の報告書の展示とともに、校内での発表の様子をビデオで上映しました。

●海老名市「環境フォーラム」で発表

課題研究の成果を展示発表するとともに、生徒代表である渥美剛史くんが「来るべきエネルギー転換」と題して、化石燃料の使用に関する問題提起を行いました。



エコプロダクツ2004における報告の様子

コラム 県立向の岡工業高等学校

向の岡工業高校は、自然環境に恵まれた多摩川のほとりに位置し、全日制・定時制に機械科・電気科・建設科の3学科が設置された専門（工業）高校です。カリキュラムに「環境」に関連した科目を設置するなど「環境に配慮できる技術者（グリーンエンジニア）の育成」を目指しています。

また、平成16年度からは「環境教育拠点校」となりました。

●ISO14001への取組

県立高校の中でも先駆的に取り組み、ゴミの分別、段ボールを利用した「リサイクルボックス」の設置、保護者や地域住民を対象とした「ISO講演会」を実施してきました。

●特色ある教育課程

1年次必修科目「環境と技術」と3年次選択科目「環境と産業」は、学校が独自に目標と内容を定めた「学校設定科目」で、風力・太陽光ハイブリッド型発電装置を導入し、実験・実習等で自然エネルギーの重要性についても学習しています。

●文化祭・体育祭

これらの取組の成果として、体育祭では競技の中で雑誌や空き缶・ペットボトルを分別しながらリレーをする

「リサイクルリレー」が生徒の考案により実現しました。文化祭では食品販売団体で使用する容器は、すべてリサイクル可能な「エコ容器」であり、その使用済み容器を回収することを目的としたクラス企画が実現しました。また、生徒・教職員と地域の方々の協力により、廃自転車の部品で無償自転車修理も行っています。



リサイクルゲームで雑誌を回収している場面